

「ビーチ」や「ハイランド」が付く ホテル名の日欧比較

—— 1960～70年代日本のホテル屋号 (4) ——

Comparison of Japanese and European Cases for Hotel Names included “Beach”
or “Highland”. *Japanese Hotel Names of the 60s and 70s: Part 4*

河村 英和
Ewa KAWAMURA

要 旨

1960～70（昭和30～50）年代は、新築ホテルの開業ラッシュが起こり、日本各地で数々のホテルが誕生したが、その屋号の命名には、ある種の傾向があった。ホテルの所在地の地名に「観光」「国際」「温泉」「グランド」「ニュー」「ロイヤル」「ビュー」等といった特定の単語を組み合わせてつくることが多く、その幾つかはヨーロッパのホテルの命名法を踏襲している。ホテルが良い「眺望」を臨める立地にあることを示すさい、「ビュー」という語を含めて命名されることがよくあるが、ときには「ビュー」を使わずに、自然環境のジャンル名を入れてホテルの屋号とするパターンもある。そこで前稿では、湖畔・川沿いの良い眺めが望めるであろう「レーク」や「リバー」といったカタカタ英語を含んだホテル名を取り上げた。その続きとして本稿では、海浜・山岳の眺めを提供するホテルでよく行われた、「海浜」「シーサイド」「ビーチ」「高原」「ハイランド」を含むホテル名の事例を取り上げ、日欧でのその命名法の違いを明らかにする。

キーワード：ホテル、屋号、シーサイド（海辺）、ビーチ（海浜）、ハイランド（高原）

第34・35・36号と、本第37号をあわせた目次：

本稿（※）を始めるにあたり、既刊の紀要第34号（Part 1：第1章の「はじめに」ならびに第2章の2-1から2-4まで）、第35号（Part 2：第2章の2-5と2-6）、第36号（Part 3：第2章の

2-7の2-7-1から2-7-3まで)、本第37号(Part4:第2章の2-7の2-7-4と2-7-5)の見出しを統合し、「目次」としたものを、以下の通り示しておく。

1. はじめに

2. ホテル屋号の命名の変遷史：地名付きホテル名の日欧比較

2-1. 具象名で命名された宿屋

2-2. ホテル建築の概念の誕生と「王室(ロイヤル)」という屋号

2-3. 国名・町名の付いたホテル屋号

2-4. 「国際」を含むホテル名

2-5. 「グランド」を含むホテル名

2-6. 「ニュー」を含むホテル名

2-7. 良い眺望のある立地とホテル名

2-7-1. 眺望の良さを示唆する「ビュー」を含むホテル名

2-7-2. 湖の眺望を示唆する「レーク」を含むホテル名

2-7-3. 河川の眺望を示唆する「リバー」を含むホテル名

2-7-4. 海の眺望を示唆する「海浜」「シー」「ビーチ」等を含むホテル名

2-7-5. 山の眺望を示唆する「高原」や「ハイランド」を含むホテル名

2-7-4. 海の眺望を示唆する「海浜」「シー」「ビーチ」等を含むホテル名

ロマン主義的な感性から派生したピクチャレスクな自然の眺望を愛でる習慣が、ホテル名に影響を与えたのは、まず「バルビュ Bellevue」という屋号であり、海の眺望が良いホテルもこの屋号が取り入れられた(前号掲載の拙前稿を参照)。やがて、海を表す言葉で命名されるホテルも登場するが、イタリア語で「海を眺める」という意味の「Miramare(ミラマーレ)」というホテル屋号は、イタリアだけでなく、ヨーロッパ各地で取り入れられた。例えば北イタリアの港町ジェ

※本稿は、「ロイヤル」や「国際」が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(1)『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』(第34号、2022年)、「グランド」や「ニュー」が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(2)『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』(第35号、2023年)、「ビュー」や「レーク」が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(3)『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』(第36号、2023年)の計3稿の続きである。

ノヴァ Genova に 1908 年に開業した「グランド・ホテル・ミラマーレ Grand Hotel Miramare」(現在は住宅に転用)は、壮麗なフランス風ネオルネッサンスの屋根とネオバロック様式の宮殿のようなパレス式グランドホテル建築 (Arnold Bringolf 設計) で、高台の立地からジェノヴァ港がよく見渡せる¹。規模は大小様々ではあるが、イタリアのリヴィエラ海岸沿い (リーグリア州からトスカナ州へかけて) やアドリア海沿岸に連なるリゾート海浜町のどの町にも、たいてい一つは「ミラマーレ」と命名されたホテルができた。例えばサンタ・マルゲリータ・リーグレ Santa Margherita Ligure に 1903 年に創業した「グランド・ホテル・ミラマーレ」は、当時の流行の最先端であったリパティ様式 (イタリア版アールヌーヴォー) にネオバロック様式を加味したファサードデザインで、今も沿岸で最も高級なホテルの一つとして営業を続けている²。イタリア語の「ミラマーレ」というホテル屋号は、イタリア国外では、「ミラマール Miramar」という語尾の e が脱落した名で、欧米の海浜リゾート地でよく普及した。例えばフランスのビアリッツ Biarritz (1927 年³)、ベルギーのオステンド Ostende (1903 年⁴)、アメリカ西海岸のサンタ・モニカ Santa Monica (1921 年⁵) やマイアミ Miami (1935 年以前⁶、現存せず) に、それぞれホテル・ミラマールができています。その流行期は、20 世紀初頭から 1930 年代までで、海水浴人気の上昇とともにこの屋号が増加しましたが、日本の海浜地のホテルでは「ミラマーレ」も「ミラマール」も全く普及しなかった⁷。とはいえ、日本旅館であれば、ホテル・ミラマーレに最も意味が似た命名に「望海楼」という屋号がある。

湖畔や河川沿いのホテルでもよく使用される「美しい水辺」を意味する仏語「ボー・リヴァージュ Beau Rivage」を名乗った海浜町のホテルも少なくない。「ボー・リヴァージュ」は、前稿で述べたように、スイスの湖畔の町 (仏語圏、独語圏に関わらず) のホテルでよく好まれた名前であるが⁸、フランスの海浜町ではカンヌ Cannes (1867 年⁹、現存せず) やニース Nice (1860 年¹⁰)、

1 Kawamura, Ewa, *Alberghi e albergatori svizzeri in Italia tra Ottocento e Novecento*, in *Storia del turismo Annale* 2003, Franco Angeli, Milano, 2004, p.17.

2 <https://www.grandhotelmiramare.it/hotel-5-stelle-santa-margherita-ligure/alberghi-storici-liguria> (2023 年 9 月 17 日閲覧)

3 <http://www.biarritz1900.fr/hotels/miramar.html> (2023 年 9 月 18 日閲覧)

4 <https://www.hotel-miramar.de/en/hotel/history.html> (2023 年 9 月 17 日閲覧)

5 <https://www.fairmont-miramar.com/blog/celebrating-fairmont-miramar-santa-monica/> (2023 年 9 月 17 日閲覧)

6 <https://www.floridamemory.com/items/show/163599> (2023 年 9 月 18 日閲覧)

7 ようやく 21 世紀になった、2002 年に千葉市に開業した「京成ホテルミラマーレ」の例があるくらいである。 <https://www.miramare.co.jp/company/> (2023 年 9 月 18 日閲覧)

8 河村英和『『ビュー』や『レーク』が付くホテル名の日欧比較—1960~70 年代日本のホテル屋号(3)』『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第 36 号、2023 年、p. 65.

9 カンヌのホテル・ボーリヴァージュは、英国人好みのネオゴシック様式でクロワゼット通りに 1863 年に建てられた住宅だったが、1882 年よりホテルとなった。 <https://expos-historiques.cannes.com/a/1110/hotel-beau-rivage-vers-1863-jx9-1er-aout-1930-/> (2023 年 10 月 9 日閲覧)

バンドル Bandol (1900年¹¹) のような人気の高級リゾート地には、早くから「ポー・リヴァージュ」という名のホテルができた。フランス語圏外でも珍しくなく、例えばイタリアではヴェネツィア Venezia にもこの屋号のホテルが19世紀半ばには存在していた¹²。またフランスの温泉町でもよく使われた仏語名のホテル屋号「ベン(水浴) Bains」は、海水浴場が目の前にあるホテルでもよく使用された¹³。フランスではポルニシェ Pornichet (1876年¹⁴)、グランヴィル Granville (1881年¹⁵)、ベルギーではヘイスト・アン・ゼー Heist-aan-Zee (Heyst sur Mer) やブランケンベルヘ Blankenberge など、海浜リゾート地の中堅ホテルにみられたが、イタリアではアドリア海沿岸、ヴェネツィア・リド島 Lido di Venezia (1900年¹⁶) やリッチョーネ Riccione (1908年¹⁷) に、それぞれ「グランド・ホテル・デ・ベン Grand Hotel des Bains」と命名された大型高級ホテルができた。

19世紀の高級ホテルの屋号は、フランス国外においてもフランス語名が慣例であったが、「ホテル・ド・ラ・プラージュ Hôtel de la Plage (海浜ホテル)」や「ホテル・ド・ラ・メール Hôtel de la Mer (海のホテル)」といった名前は、フランス語圏外ではあまり普及しなかった。「グランド」の接頭辞が屋号に含まれていない場合は、規模のあまり大きくない海浜町にある中・小規模なホテルで好まれた。「ド・ラ・プラージュ」を含む名前のホテルがあった主な町は、カンヌ、ディナール Dinard、エトルタ Étretat、ル・トレポール Le Tréport、サン・マルゲリット・ド・ポルニシェ Sainte-Marguerite-de-Pornichet、ミドルケルク Middelkerke、オステンドである。同じく「ド・ラ・メール」もローカルな海浜町の中・小規模なホテルでよく見られ、この屋号のホテルが存在した主な町として、トレガステル Tregastel、カルテレ Carteret、モルガ Morgat、サン・トバン・シュル・メール Saint-Aubin-sur-Mer、フォール・マオン・プラージュ Fort-Mahon-Plage が挙げられる。

ドイツ語圏では「浜辺」を意味する独語「シュトランド Strand」を入れた「浜辺ホテル(シュ

10 <https://www.hotelnicebeaurivage.com/notre-histoire-2/> (2023年10月9日閲覧)

11 <https://www.bandoltourisme.fr/bandol/la-destination/bandol-dautrefois/le-parcours-historique/lhotel-beau-rivage/> (2023年10月9日閲覧)

12 スキアヴォーニ海岸通りに1853年に開業した「英国ホテル Hotel d'Angleterre」を1865年に改名したもので、現在のホテル「ロンドラ・パラス Londra Palace」の前身である。<https://www.londrapalace.com/fr/hotel.html> (2023年10月9日閲覧)

13 また、湖畔に位置するホテル名でも、ときおり「デ・ベン」が使用されることも、前号の「2-7-2」節で述べた。

14 https://www.pornichet-patrimoine.com/pages/Pornichet_au_fil_du_temps-2686830.html (2023年10月9日閲覧)

15 <http://www.hoteldesbains-granville.com/en/history-hotel-des-bains.html> (2023年10月9日閲覧)

16 河村英和「19世紀から20世紀初頭におけるヴェネツィアのホテル建築の変遷について—ヴェネト・ビザンチン様式の歴史的パラッツォ転用からグランドホテル様式建設まで」『日本建築学会計画系論文集73(629)』、2008年、pp. 1641-1642。

17 <https://www.grandhoteldesbains.com/la-storia/> (2023年10月9日閲覧)

「ビーチ」や「ハイランド」が付くホテル名の日欧比較

トランドホテル Strandhotel)」という屋号が普及した。シュトランドホテルがある海浜町は、グルックスブルク（グリュックスブルク）Glucksburg（Glücksburg）（1872年¹⁸）、ザスニッツ Sassnitz、トラフェミュンデ Travemünde など枚挙に暇がない。また、独語「シュトランド」は仏語の「リヴァージュ」に類する単語であるため、浜辺だけでなく湖畔の立地にあるホテルでもこの屋号はよく用いられた。「海・湖」を意味する独語「ゼー See」を含んだドイツのホテル名「ゼーホテル Seehotel」についても、海の立地だけでなく湖に面しているホテルでもよく好まれていた。また、独語「バーデホテル Badehotel（浴場ホテル）」は、ドイツでは温泉地に多いが、ときには湖畔の町や海水浴リゾート地でもみられる。このバーデホテルという屋号はむしろデンマークの海浜町に多く、例えば、クランペンボー Klampenborg（1866年¹⁹）、スコツボー Skodsborg（1874年²⁰）、ギッレライエ Gilleleje（1908年²¹）に、この名前のホテルが開業している。

日本のホテル名で海の立地を示した初期の例では、由比ガ浜の海水浴場が有名な鎌倉で、1907（明治40）年に開業した「鎌倉海浜ホテル」がある²²。元結核療養所「海浜院」の建物を、英国人建築家ジョサイア・コンドル Josiah Conder（1852-1920）のデザインでホテルに改築したもので、アルカション Arcachon やピアリッツのようなフランス・バスク地方の海浜町の建物でよく見られるようなハーフティンバー様式の外観となったが、1945（昭和20）年、アメリカ軍による接収中、不慮の火事で焼失し、現在もその跡地は更地のままになっている。このホテルは、英語版パンフレットや絵葉書では「Kamakura Kaihin Hotel」（ときに先代の名称で「海浜院ホテル Kaihin-in Hotel」とも）と日本語をアルファベット化して正式名称としていた（図1）。ほか日本で「海浜ホテル」と称したものには、別府温泉の海浜ホテル、唐津海浜ホテル、豊田浜の海浜ホテル震洋館があった。これらは旅館のような和風建築であり、旅館であればさしずめ「望海楼」とも名付けられそうな建物である。戦後開業のものには、平塚海浜ホテル（1947年）、江の島海浜ホテル（1953年²³）、熱海海浜ホテル（1964年以前²⁴）、下田海浜ホテル（1958年²⁵）今井浜海浜ホテル真砂荘（開業年不明）があり、これらは概して、鉄筋コンクリート造のモダニズム建築であることが多い。

18 <https://strandhotelgluecksburg.de/>（2023年10月10日閲覧）

19 クランペンボーのバーデホテルは、1923年に焼失した。<https://arkiv.dk/vis/4198815>（2023年9月19日閲覧）

20 <https://kbhbilleder.dk/kbh-museum/49439>（2023年9月19日閲覧）

21 <https://gillelejobadehotel.dk/en/badehotel/historie/>（2023年10月10日閲覧）

22 富田昭次『ホテルと日本近代』青弓社、2003年、pp. 163-164.

23 福永建築設計事務所「江の島海浜ホテル」『建築文化』1953年9月号、pp. 15-19.

24 現在は部分的に解体されその残骸が廃墟化している。廃墟探検地図「熱海海浜ホテル」<https://haikyo.info/s/11354.html>（2023年9月19日閲覧）

25 トクー！「政府登録国際観光旅館 下田海浜ホテル」<https://www.tocoo.jp/detail/1004710>（2023年11月24日閲覧）

図1 「Kamakura Kaihin-in Hotel. The beauty spot in Japan」とキャプションが書かれている20世紀初頭の「鎌倉海浜院ホテル」の英語版絵葉書



日本では1960年代になると、カタカナ英語で「シーサイド Seaside」と命名されるホテルが急増した。時系列順に列挙すると、館山シーサイドホテル（1962年²⁶）、（加太温泉の）吾妻屋シーサイドホテル（1965年²⁷）、別府シーサイドホテル美松（1967年²⁸）、小豆島シーサイドホテル水明荘（1968年²⁹）、奄美シーサイドホテル（1968年³⁰）、唐津シーサイドホテル（1968年³¹）、奥城崎シーサイドホテル（1971年³²）、鳥羽シーサイドホテル（1971年³³）、（宮崎の）シーサイドホテルフェニックス（1971年³⁴）、^{とも}鞆シーサイドホテル（1971年³⁵）、桂川シーサイドホテル（1972

26 朝日新聞社編『日本の宿—Where to lay your head in Japan』朝日新聞社、1977年、p. 156.

27 近鉄ケーブルネットワーク「加太温泉 吾妻屋シーサイドホテル（和歌山県）」<http://www4.kcn.ne.jp/~t-yoko/55-wakayama/55-kada.html>（2023年11月24日閲覧）

28 「別府“海上ホテルの感”ある別府シーサイドホテル美松」『月刊ホテル旅館』1967年1月号、pp. 16-20.

29 富岡建築研究所「今月の建築 小豆島シーサイドホテル水明荘」『近代建築』1968年6月号、pp. 125-127.

30 2010年に解体され、跡地には2013年に「奄美山羊島ホテル」が建った。東条設計「奄美山羊島ホテル完成」『東条設計スタッフブログ』2013年6月26日配信、<http://tojo-blog.seesaa.net/article/367599229.html>（2023年4月1日閲覧）

31 斎藤武「玄海灘を背に虹の松原を見下ろす—唐津シーサイドホテル」『月刊ホテル旅館』1968年11月号、pp. 9-14.

32 榎谷建築設計事務所「奥城崎シーサイドホテル」『近代建築』1971年5月号、pp. 130-133; 「奥城崎シーサイドホテル〈兵庫県竹野町〉」『月刊ホテル旅館』1972年8月号、pp. 36-39.

33 鳥羽シーサイドホテル「会社概要：沿革」<https://www.tobaseasidehotel.co.jp/company/>（2023年4月1日閲覧）

34 「シーサイドホテルフェニックス（宮崎）」『月刊ホテル旅館』1971年6月号、pp. 36-40.

35 「鞆シーサイドホテル」『月刊ホテル旅館』1971年8月号、pp. 39-41.

「ビーチ」や「ハイランド」が付くホテル名の日欧比較

年³⁶)、皆生シーサイドホテル (1971年³⁷)、白崎シーサイドホテル (1973年³⁸)、隠岐シーサイドホテル鶴丸 (1973年³⁹)、大洗シーサイドホテル (1984年⁴⁰) があり、その最盛期は、1964年の東京オリンピックから1970年の大阪万博の間のホテル建設・開業ラッシュの時期と重なっている。

19～20世紀初頭のヨーロッパでは英語名「シーサイド Seaside」を屋号に使ったホテルは、さほど普及せず、例えばアメリカの海水浴地では、アトランティック・シティ Atlantic City に大型高級ホテルで、「シーサイド・ホテル Seaside Hotel」と命名されたものが1862年に開業している⁴¹。英国の海水浴地では、シーサイド・ホテルという屋号よりも、温泉地でもよく使われる「ハイドロ・ホテル Hydro Hotel (水ホテル)」というホテル名のほうが一般的であり、中・小規模なホテルで好まれた。例えば英国の海浜町では、ランディッソ Llandudno (1860年⁴²)、イーストボーン Eastbourne (1895年⁴³)、マーゲート Margate (1902年⁴⁴)、マン島 Isle of Man のダグラス Douglas (1910年⁴⁵)、やトーキー Torquay にこの名前のホテルができた。建物の規模が大きく高級感もある場合は、それ相応の接頭辞がついた。例えばブラックプール Blackpool の南側にあるセント・アンズ・オン・シー St. Anne's on Sea には、「インペリアル・ハイドロ・ホテル Imperial Hydro Hotel」(1910年⁴⁶)があった。やはり英国の海浜リゾートの大型高級ホテルの屋号は、インペリアルやロイヤルやマジェスティックなどといった、建物の豪華さと連動する名称の方が好まれ、海水浴を意味する単語をなるべく含めないようにする傾向にあった。「ビーチホテル Beach Hotel」という英語名称のホテルもヨーロッパではあまり普及せず、英国植民地時代の南アフリカのサマースtrand Summerstrand (1894年⁴⁷)、アメリカではギャルヴェストン Galveston (1883年⁴⁸)、シカゴ Chicago (1916年⁴⁹)、メキシコのロザリート海岸 Playas Rosarito

36 林浩二「桂川シーサイドホテル (土肥温泉)」『月刊ホテル旅館』1972年2月号、pp. 38-41。

37 辰野清隆建築事務所「皆生シーサイドホテル」『近代建築』1973年6月号、pp. 103-105。

38 創建社伊藤建築事務所「白崎シーサイドホテル」『近代建築』1973年12月号、pp. 114-116。

39 るるぶトラベル「隠岐シーサイドホテル鶴丸 (Oki Seaside Hotel Tsurumaru)」、<https://www.rurubu.travel/hotel/japan/oki-islands/oki-seaside-hotel-tsurumaru?cid=1839115> (2023年4月3日閲覧)

40 高島不二男「大洗シーサイドホテル (茨城県・大洗海岸)」『月刊ホテル旅館』1984年8月号、pp. 170-171; pp. 173-179。前身は1918(大正7)年創業の旅館「大洗荘」に遡る。大洗シーサイドホテル「おもてなしの原点」<http://ooarai-seasidehotel.co.jp/origin> (2023年4月1日閲覧)

41 <https://www.loc.gov/item/nj1067/> (2023年9月19日閲覧)

42 <https://victorianweb.org/places/nwales/2.html> (2023年10月10日閲覧)

43 <https://www.hydrohotel.com/the-hydro-hotel/> (2023年10月10日閲覧)

44 <https://haeckels.co.uk/journal/hydro/> (2023年10月10日閲覧)

45 <http://www.hydrohotel.co.im/> (2023年10月10日閲覧)

46 1920年にはマジェスティック・ホテルと改名されている。https://amounderness.co.uk/the_majestic_imperial_hydro_hotel.html (2023年10月10日閲覧)

47 <https://www.thebeachhotel.co.za/pages/discover-the-beach-hotel/> (2023年9月19日閲覧)

(1924年⁵⁰)にこの名前のホテルがあった。1960～70年代のレジャーブームの日本でも、ビーチホテルと命名されるホテルはさほど多くは誕生しておらず、指宿コーラルビーチホテル(1965年⁵¹)、平砂浦ビーチホテル(1973年⁵²)、そしてバブル期前後に沖縄・万座ビーチホテル(1983年⁵³)、^{すず}珠洲ビーチホテル(1996年⁵⁴)、宮崎の青島パームビーチホテル(1996年⁵⁵)、高知の白浜ホワイトビーチホテル(1997年⁵⁶)が挙げられる程度である。

2-7-5. 山の眺望を示唆する「高原」や「ハイランド」を含むホテル名

ヨーロッパでは、海辺の立地のときと同様に、山岳の良い景色を望む高級ホテルの場合、あえて山を表す言葉を屋号に入れることなく、グランド、パラス、ロイヤル、マジェスティックなどと仰々しく命名して、その名に相応しい宮殿のような豪華な建物とするのが、バルエポック時代の慣習であった。その一方で山にまつわる単語が屋号に入っているホテルは中堅ホテルが多かった。ただしスイスでは、「山頂」を意味する独語「クルム Kulm」と命名されたホテルが多く、山岳リゾート地やケーブルカーを登った先の各山頂にあり、山小屋のような質素なものから、サンモリッツ St. Moritz やリギ Rigi 山頂にあった「クルムホテル Kulm Hotel」のように、大型高級ホテルである場合も少なくない⁵⁷。

19～20世紀初頭の高級ホテルは、フランス語で命名することが通例であったので、「アルプス」を示す仏語「アルプ Alpes」を含む「ホテル・デザルプ Hotel des Alpes」という名のホテルは、スイスではフランス語圏でない地域でも、数多くできた。ただ有名な山岳リゾート地では、グランドホテル建築を想起させる仰々しい名前の方が、高級ホテルに好まれやすく、ホテル・デザルプという屋号であれば、中堅ホテルであることが多かったが、知名度がさほど高くない町では、

48 <https://www.rosenberg-library-museum.org/treasures/the-beach-hotel> (2023年10月10日閲覧)

49 1971年に解体された。<https://www.preservationchicago.org/edgewater-beach-hotel-by-marshall-fox-built-1916-1923-demolished-1971/> (2023年9月19日閲覧)

50 <https://www.rosaritobeachhotel.com/history> (2023年9月19日閲覧)

51 前身は、1951年創業の旅館「田原迫(たはらさこ)」。朝日新聞社編『日本の宿—Where to lay your head in Japan』朝日新聞社、1977年、p. 262.

52 やど日本「館山市 平砂浦ビーチホテル」<https://www.ryokan.or.jp/inn/25771> (2023年9月19日閲覧)

53 観光企画設計社「万座ビーチホテル」『新建築』1983年10月号、pp. 202-209.

54 珠洲おしごとナビ「珠洲鉢ヶ崎ホテル株式会社」https://suzu-oshigotonavi.jp/company_summary/170 (2023年9月20日閲覧)

55 清水建設「青島パームビーチホテル」https://www.shimz.co.jp/works/jp_com_199606_aoshima.html (2023年9月20日閲覧)

56 「戦う小規模店シリーズ 140 ホワイトビーチホテル(高知県・東洋町白浜)」『月刊ホテル旅館』1997年11月号、pp. 200-201.

57 河村英和『観光大国スイスの誕生—「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013年、pp. 103-104, p. 185.

「ビーチ」や「ハイランド」が付くホテル名の日欧比較

ホテル・デザルプがその町で最も良い宿となることは、珍しくないことだった。

イタリア語で「山を望む」を意味する「ミラモンティ Miramonti」という屋号は、山岳の良い景色が見えることを示唆するホテルで使用された。海浜地で好まれたホテル屋号のミラマレのときと同様に、イタリア国外でも受け入れられた山岳地のホテル名である。イタリアでは、コルティーナ・ダンペッツォ Cortina d'Ampezzo に「ミラモンティ・マジェスティック・ホテル Miramonti Majestic Hotel」(1902年⁵⁸)、ガレッシオ Garessio に「グランド・ホテル・ミラモンティ Grand Hotel Miramonti」(1928年⁵⁹)、サン・ヴィンサン Saint Vincent やクールマイル Courmayeur、スキオ Schio、コーニュ Cogne、アヴェレンニョ Avelegno、ピエトラカメラ Pietracamela、モンテグロット・テルメ Montegrotto Terme にもミラモンティという名前のホテルがあったが、ミラモンティだけでなくマジェスティックやグランドのような壮麗さを表す単語と組み合わせた屋号のときは、その看板に偽りないように高級路線の建物のホテルであった。イタリア国外では20世紀初頭、チェコの温泉町マリーエンバート Marienbad に、「ホテル・シュロス・ミラモンティ Hotel Schloss Miramonti」というネオバロック様式建築の高級ホテルがあった。

以上ヨーロッパの山岳リゾート地のホテル名としてよく普及していた、独クルム、仏デザルプ、伊ミラモンティのいずれもが、日本では全く普及せず、あまり高くない山を指す英語「ハイランド Highland (高原)」を使ったホテル名が好まれた。ハイランドとはもともと、スコットランドのハイランド地方のことであり、ヨーロッパ大陸にあるような標高2000m級以上の高山のないイギリスにおいては、ハイランド地方の高原が「山の風景」として愛でられていた。そのため当然ながら、「ハイランド・ホテル Highland Hotel」という名は、スコットランドに多い⁶⁰。例えば、インヴァーネス Inverness (1856年⁶¹) や、フォート・ウィリアム Fort William (1896年⁶²) にできたハイランド・ホテルは今も健在だ。ハイランド地方の各地にできたローカル色濃いホテル名であったため、ヨーロッパではほとんど普及しなかったが、アメリカではこの名前のホテルは

58 <https://www.miramontimajestic.it/albergo-legendario.html> (2023年10月10日閲覧)

59 1986年に火災が起り、現在は廃墟となっている。<https://www.lastampa.it/cuneo/2017/08/17/news/da-grand-hotel-di-garessio-a-rudere-senza-tetto-circondato-da-vegetazione-e-mistero-1.34437374/> (2023年10月10日閲覧)

60 ヘイスティングス Hastings の「ハイランズ・ホテル」(1874年)のように、ときに複数形のハイランズ Highlands を使用した屋号もあった。<https://historicengland.org.uk/images-books/photos/item/IOE01/00066/20> (2023年10月11日閲覧)

61 当初は駅前の立地から「ステーション・ホテル Station Hotel」として誕生したが、のちに「ロイヤル・ハイランド・ホテル」と改名された。<https://www.royalhighlandhotel.co.uk/inverness-hotels/history-and-heritage.html>

62 ここも駅前にあることから、当初は「ステーション・ホテル」という名であったが、1920年代に「ハイランド・ホテル」に改名された。<https://www.thehighlandhotel.com/history> (2023年10月11日閲覧)

珍しくなく、そしてなによりも日本の山岳地でもよく使われた。時系列順に、「ハイランド」を屋号に含む日本のホテルを列挙すると、小田急箱根ハイランドホテル（1957年⁶³；1977年⁶⁴）、草津ハイランドホテル（1964年⁶⁵）、九重ハイランドホテル（1965年⁶⁶）、（高湯温泉の）花月ハイランドホテル（1967年⁶⁷）、志賀ハイランドホテル（1962年⁶⁸）、白馬ハイランドホテル（1974年⁶⁹）、飛騨ハイランドホテル（1977年⁷⁰）、鷺羽ハイランドホテル（1980年⁷¹）、清里高原ハイランドホテル（1982年⁷²）、六呂師ハイランドホテル（1983年⁷³）、芸北ハイランドホテル（1987年⁷⁴）となり、その命名の流行は、1960～70年代だけでなく、80年代のバブル期も続いていた。

日本の山岳地では、「ハイランド」の日本語訳である「高原」という単語を含むホテル名も多く、こちらの方が歴史的に古く戦前からあった。例えば、外国人向けの高級スキーリゾートホテルとして誕生した志賀高原ホテル（1937年⁷⁵）の例があるが、1950年代後半から、地名に「高原」を付けることが流行り始めたため、戦後日本で急増した「高原ホテル」という屋号は、地名に合わせたまでともいえる。開業年順にその例を列挙すると、えびの高原ホテル（1958年⁷⁶）、裏磐梯高原ホテル（1958年⁷⁷；1983年⁷⁸）、霧島高原ホテル（1959年⁷⁹）、箱根高原ホテル（1962年⁸⁰）、

63 当時の建物は、日本の古民家と洋風ハーフティンバーを混合したような山小屋風の外観だった。ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1972年版』オータパブリケーションズ、1971年、p. 182.

64 小田急箱根ハイランドホテル「箱根ハイランドホテルの歴史」、<https://www.hakone-highlandhotel.jp/history/>（2023年4月2日閲覧）

65 ホテル求人ドットコム「草津ハイランドホテル」、https://www.hotelkyujin.com/hotel-detail?c_no=1816（2023年4月2日閲覧）；跡地には、2020年に共立メンテナンスが運営するホテル「ラピスタ草津ヒルズ」が建った。「草津、宿泊新施設に沸く、景観整備で若者増加、共立メンテ、客室70のホテル、金みどり、地蔵の湯近くに。」『日本経済新聞』北関東版、2019年8月22日、p. 41.

66 「九重ハイランドホテル 事業を休止、売却へ」『大分合同新聞』2008年11月08日、<https://ameblo.jp/naka-toa/entry-10162915547.html>（2023年4月2日閲覧）

67 「信夫高湯を一新した—花月ハイランドホテル」『月刊ホテル旅館』1967年5月、pp. 18-22.

68 トクー！「志賀ハイランドホテル」、<https://www.tocoo.jp/detail/1021646>（2023年4月2日閲覧）

69 トクー！「白馬姫川温泉 白馬ハイランドホテル」、<https://www.tocoo.jp/detail/4000945>（2023年4月3日閲覧）

70 「飛騨ハイランドホテル」『SD: Space Design』1973年10月号、p. 119;

71 「鷺羽ハイランドホテル」は、2019年に「WASHU BLUE RESORT 風籠」と改名された。

72 清里高原ハイランドホテル「沿革」、<https://www.kiyosato-hilandhotel.com/company.html>（2023年4月3日閲覧）

73 「福井県大野市六呂師地区の共同ホテル、スキー客にモチモチーオフシーズンにも期待。」『日本経済新聞』北陸版、1984年3月22日、p. 8.

74 「チチヤス乳業、スキー場にホテル建設—レジャー分野拡充。」『日本経済新聞』中国版、1987年12月11日、p. 35.

75 ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1973年版』オータパブリケーションズ、1972年、p. 247.

76 同上、p. 453.

77 裏磐梯高原ホテル「会社情報」、<https://urabandai-kougen.com/company/>（2023年4月3日閲覧）

78 「裏磐梯高原ホテル開業—テニスコート・スキー場併設、ゴルフ場提携パックも。」『日経産業新聞』1983年4月23日、p. 8; 早川哲「裏磐梯高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1983年8月号、pp.132-133; pp.137-142.

図2 志賀高原ホテル (Hotel Shiga Heights) の戦前の靴ステッカー



尾瀬高原ホテル (1962年; 1986年⁸¹)、美ヶ原高原ホテル (1963年⁸²)、妙高高原ホテル (1942年⁸³; 1964年⁸⁴)、十和田高原ホテル (1967年⁸⁵)、瀬の本高原ホテル (1967年⁸⁶)、那須高原ホテル (1967年⁸⁷)、奥志賀高原ホテル (1970年⁸⁸) (図2)、斑尾高原ホテル (1972年⁸⁹)、椀池高原ホ

79 村田政真建築設計事務所「霧島高原ホテル・ヒュッテ」『新建築』1959年8月号、pp. 25-34; 村田政真「霧島高原ホテルについて」『建築界』1960年11月号、p. 40; 村田政真建築設計事務所「霧島高原ホテル別館」『新建築』1963年5月号、pp. 115-123.

80 開業当初は「ホテル」と称していても、「学生宿舎」を目的にした宿泊施設で、各部屋にバストイレはなくすべて和室であった。特徴的な塔屋部分の「展望浴場」は、近年撤去された。日本建築家協会関西支部『建築家作品選1962』日本建築家協会関西支部、1963、pp. 48-50; 河井覚建築事務所「箱根高原ホテル」『近代建築』1963年4月号、pp. 126-129.

81 「尾瀬勤労者休暇センター、尾瀬戸倉スキー場のホテル完成。」『日本経済新聞』北関東版、1986年12月7日、p. 4.

82 信建築設計事務所「美ヶ原高原ホテル」『新建築』1963年3月号、pp. 180-184.

83 1973年の記事に「妙高高原ホテルの歴史はすでに31年。高原風のモダンな建物は周囲の風景にマッチしている。」と記載されていることから、創業年は1942年と推定され、山小屋風の意匠で、1964年までに新築されたと思われる。「心に残る旅の宿：妙高高原ホテル」『実業往来』1973年1月号、pp. 122-123.

84 「山荘風の高原ホテル—新赤倉温泉・妙高高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1964年12月号、pp. 18-22.

85 「奥東北：高原の新しいリゾート—十和田高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1967年8月号、pp. 88-90.

86 「瀬の本高原ホテル」『SD: Space Design』1967年11月号、pp. 143-145.

87 江戸時代創業の旅館「松川屋」に遡り、1967年に新築したさいに「那須高原ホテル」と改名した。温泉達人コレクション「Vol.17／那須湯本温泉 松川屋 那須高原ホテル・廣川琢哉」、<http://onsen-c.com/2020/04/27/hirokawatakuya/> (2023年4月2日閲覧); 斎藤武「那須高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1969年7月号、pp. 89-91.

テル(1972年⁹⁰)、立山高原ホテル(1975年⁹¹)、木曾御岳高原ホテル(1976年⁹²)、栗駒高原ホテル(1970年代)となる。そして日本では「高原」を含む名が付くホテルの建物は、スイスシャレー風あるいはハーフティンバー調の意匠にする傾向にあった。1960~70年代に建ったものは、客室はまだ畳の和室であることが主流であっても、「高原ホテル」と称するホテルの外観は、スイスやチロルのスキーリゾート村にある山小屋風をイメージしたものが好まれるようになったのだ⁹³。
(つづく)

【謝辞】

本研究は、2021年度跡見学園女子大学特別研究助成費を受けて実施された研究成果の一部である。ここに記して心より謝意を表します。

参考文献

(和文)

朝日新聞社編『日本の宿—Where to lay your head in Japan』朝日新聞社、1977年

河村英和「19世紀から20世紀初頭におけるヴェネツィアのホテル建築の変遷について—ヴェネト・ビザンチン様式の歴史的パラッツォ転用からグランドホテル様式建設まで」『日本建築学会計画系論文集 73(629)』、2008年、pp.1637-1642

河村英和『観光大国スイスの誕生—「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013年

河村英和「日本の山岳・高原リゾート地における疑似スイス風シャレー建築と英国風・チロル風ハーフティンバー様式」『跡見学園女子大学 観光コミュニティ研究』第1号、2022年、pp.23-41

河村英和「『ロイヤル』や『国際』が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(1)」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第34号、2022年、pp.137-157

河村英和「『グランド』や『ニュー』が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(2)」『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』第35号、2023年、pp.91-117

河村英和「『ビュー』や『レーク』が付くホテル名の日欧比較—1960~70年代日本のホテル屋号(3)」『跡

88 平島二郎「奥志賀高原ホテル」『建築文化』1971年4月号、pp.145-150; 平島二郎「奥志賀高原ホテル設計へのアプローチ」『月刊ホテル旅館』1972年8月号、pp.65-71.

89 トクー!「夕陽百選の宿 斑尾高原ホテル」、<https://www.tocoo.jp/detail/4003012> (2023年4月2日閲覧); 林浩二「フジタ斑尾高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1973年3月号、pp.34-37.

90 Trip.com「梅池高原ホテル(Tsugaike Kogen Hotel)」、<https://jp.trip.com/hotels/otari-hotel-detail-1497633/tsugaike-kogen-hotel/> (2023年4月3日閲覧)

91 三四五建築研究所「立山高原ホテル」、<http://www.miyoi.co.jp/jirei/tateyamakogen> (2023年4月3日閲覧)

92 「木曾御岳高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1976年10月号、p.14; pp.26-29.

93 河村英和「日本の山岳・高原リゾート地における疑似スイス風シャレー建築と英国風・チロル風ハーフティンバー様式」『跡見学園女子大学 観光コミュニティ研究』第1号、2022年、pp.23-41.

「ビーチ」や「ハイランド」が付くホテル名の日欧比較

見学園女子大学マネジメント学部紀要』第36号、2023年、pp. 53-70

富田昭次『ホテルと日本近代』青弓社、2003年

ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1972年版』オータパブリケーションズ、1971年

ホテルレストラン誌編『日本ホテル年鑑1973年版』オータパブリケーションズ、1972年

(欧文)

Kawamura, Ewa, *Alberghi e albergatori svizzeri in Italia tra Ottocento e Novecento*, in *Storia del turismo Annale* 2003, Franco Angeli, Milano, 2004, pp.11-41

(新聞・雑誌記事) (時系列順)

福永建築設計事務所「江の島海浜ホテル」『建築文化』1953年9月号、pp. 15-19

村田政真建築設計事務所「霧島高原ホテル・ヒュッテ」『新建築』1959年8月号、pp. 25-34

村田政真「霧島高原ホテルについて」『建築界』1960年11月号、p. 40

信建築設計事務所「美ヶ原高原ホテル」『新建築』1963年3月号、pp. 180-184

河井覚建築事務所「箱根高原ホテル」『近代建築』1963年4月号、pp. 126-129

村田政真建築設計事務所「霧島高原ホテル別館」『新建築』1963年5月号、pp. 115-123

日本建築家協会関西支部『建築家作品選1962』日本建築家協会関西支部、1963、pp. 48-50

「山荘風の高原ホテル—新赤倉温泉・妙高高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1964年12月号、pp. 18-22

「別府“海上ホテルの感”ある別府シーサイドホテル美松」『月刊ホテル旅館』1967年1月号、pp. 16-20

「信夫高湯を一新した—花月ハイランドホテル」『月刊ホテル旅館』1967年5月、pp. 18-22

「奥東北：高原の新しいリゾート—十和田高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1967年8月号、pp. 88-90

「瀬の本高原ホテル」『SD: Space Design』1967年11月号、pp. 143-145

富岡建築研究所「今月の建築 小豆島シーサイドホテル水明荘」『近代建築』1968年6月号、pp. 125-127

斎藤武「玄海灘を背に虹の松原を見下ろす—唐津シーサイドホテル」『月刊ホテル旅館』1968年11月号、pp. 9-14

平島二郎「奥志賀高原ホテル」『建築文化』1971年4月号、pp. 145-150

榎谷建築設計事務所「奥城崎シーサイドホテル」『近代建築』1971年5月号、pp. 130-133

「奥城崎シーサイドホテル〈兵庫県竹野町〉」『月刊ホテル旅館』1972年8月号、pp. 36-39

「シーサイドホテルフェニックス(宮崎)」『月刊ホテル旅館』1971年6月号、pp. 36-40

「鞆シーサイドホテル」『月刊ホテル旅館』1971年8月号、pp. 39-41

林浩二「桂川シーサイドホテル〈土肥温泉〉」『月刊ホテル旅館』1972年2月号、pp. 38-41

平島二郎「奥志賀高原ホテル設計へのアプローチ」『月刊ホテル旅館』1972年8月号、pp. 65-71

「心に残る旅の宿：妙高高原ホテル」『実業往来』1973年1月号、pp. 122-123

林浩二「フジタ斑尾高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1973年3月号、pp. 34-37

辰野清隆建築事務所「皆生シーサイドホテル」『近代建築』1973年6月号、pp. 103-105

「飛驒ハイランドホテル」『SD: Space Design』1973年10月号、p. 119

創建社伊藤建築事務所「白崎シーサイドホテル」『近代建築』1973年12月号、pp. 114-116

「木曾御岳高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1976年10月号、p. 14; pp. 26-29

「裏磐梯高原ホテル開業—テニスコート・スキー場併設、ゴルフ場提携バックも。」『日経産業新聞』1983年4月23日、p. 8

早川哲「裏磐梯高原ホテル」『月刊ホテル旅館』1983年8月号、pp. 132-133; pp. 137-142

「福井県大野市六呂師地区の共同ホテル、スキー客にモテモテ—オフシーズンにも期待。」『日本経済新聞』北陸版、1984年3月22日、p. 8

高島不二男「大洗シーサイドホテル（茨城県・大洗海岸）」『月刊ホテル旅館』1984年8月号、pp. 170-171; pp. 173-179

観光企画設計社「万座ビーチホテル」『新建築』1983年10月号、pp. 202-209

「尾瀬勤労者休暇センター、尾瀬戸倉スキー場のホテル完成。」『日本経済新聞』北関東版、1986年12月7日、p. 4

「チチヤス乳業、スキー場にホテル建設—レジャー分野拡充。」『日本経済新聞』中国版、1987年12月11日、p. 35

「戦う小規模店シリーズ140 ホワイトビーチホテル（高知県・東洋町白浜）」『月刊ホテル旅館』1997年11月号、pp. 200-201

「草津、宿泊新施設に沸く、景観整備で若者増加、共立メンテ、客室70のホテル、金みどり、地蔵の湯近くに。」『日本経済新聞』北関東版、2019年8月22日、p. 41